

期末テスト後の職員室

放課後の職員室から聞こえるのは、電話の鳴る音と、紙の上を走るペンの音だけ……というところオーバーかもしれないが、期末テスト後の職員室はいつもよりはるかに静かです。皆さんが問題を解いている時のように、職員も黙々と解答用紙に向かっていています。今日は、期末テストにどんな苦労や思いがあるかを書いてみますね。

期末テストは大切だとわかっていても、皆さんにとって「日も早くクリアしたいものだ」と思うので、それを作る側の苦労なんて考えたことはないでしょうね。そこには、解答する側にはわからない手間と時間、そして苦悩が染み込んでいます。

個人差、教科差はありますが、どの問題をどのように出すかということについては、どの教科のだけれども多くの時間をかけて考えています。早い方だと一ヶ月くらい前から作り始めるのではないのでしょうか。パソコンの画面に作成途中のテストが映し出されていることを見かけますからね。

テストができ上がると、作成した本人が一度解答してみます。答えにくい問題や、意図が伝わらない問題、誤字脱字がないかなどについて、まずは自分で確かめます。それが終わると、教科部会が開かれ、更に出題の仕方や模範解答が検討されます。教科部会がもてない教科については、担当者で何度も見直しがなされます。

テストが終わると、いよいよ採点です。これが大変です。正確かつ公平に採点しなければなりませんし、できるだけ早く採点を終わえ返却しなければなりません。解答用紙が担当者のもとにもどつてくると、その日の職員室の灯りは夜遅くまでついています。

私は国語科ですので、国語のテストの採点の大変さがよくわかります。記号で答える場合はまだよいのですが、記述で答える問題、特に短作文の問題の採点には必死です。採点基準を明確にした上で、その問題についてだけ全員分を一気に採点します。採点基準が変わってしまったように、採点中は休憩を入れません。「A組が終わったら休憩して……」というわけにはいかないのです。

他の教科においても、大同小異、苦労や大変さがあります。だれもがこの問題は解いてほしいなあ」「あの時授業でやったから大丈夫だろ」と思って作っています。解く側からすると、そんなふうには考えられないかもしれませんけどね。

期末テストは、生徒を評価するものだと思いますが、実は教師の評価の材料でもありません。授業の進め方や指導の仕方が期末テストの結果に反映されるので、自分の授業をテスト結果から振り返ることができません。期末テストは教師にとっても、謙虚に受け止めるべきものなのです。期末テストにどきどきしているのは生徒だけではないのですよ！知っていましたか？（十一月十二日記）



教師1年目のS教諭も頑張って採点しています。